

# 令和6年度第2回天理市社会教育委員会議の議事録

## 1. 「わたしたちの未来を考える作品展」の見学

文化センターの展示ホールにおいて「わたしたちの未来を考える作品展」を見学。「わたしたちの未来を考える作品展」では、児童生徒が地域社会の課題にどう向き合うかをSDGsの観点から学んだ学習についてまとめた作品が、学校ごとに展示されている。

## 2. あいさつ（議長）

教育の目的は「今と未来を良くするため」であることを軸として持った上で、過去への感謝を持ちながら未来に向けた活動が重要である。

## 3.

### (1) サステイナブルな社会の実現に向けて

～「わたしたちの未来を考える作品展」より環境問題などの社会課題を地域みんなで取り組むには～

- 「わたしたちの未来を考える作品展」では、児童生徒がSDGsに関連する学習をしながら、地域社会の課題にどう向き合うかについて考えたことが発表されている。
- SDGsにどう取り組みむかについて、大人も子どもと共に考える機会が必要である。
- 子どもたちのサステイナブルな社会の実現に向けた取り組みには、ポジティブな方向性が必要ではないかという意見も出された。

### (2) ほっとステーションの現状報告

- 本市では、保護者対応や学校運営に関するサポートをほっとステーションが現場に出向いて、学校と一緒に組織として行っている。
- 天理市立の小中学校では、学校での保護者との面談や家庭訪問については、朝8時半から夕方5時までの間のみの対応とした。夕方5時以降に保護者対応をする場合は、しっかり話を聞くために、予約制をとり、ほっとステーションのSVや心理士と一緒に立ち会うこととしている。
- 管理職不足が深刻化しており、人材確保が急務となっており、教員の働き方改革を促進する取り組みが行われている。
- 教育大綱ではSOSを出す力やコミュニケーション力など、子どもたちに必要な力を身につけることが目指されている。
- 子どもの事実と想像を分けて理解することが重要であり、保護者と落ち着いてコミュニケーションをとることが必要。
- ほっとステーションは学校と保護者の関係を強化し、専門家の意見を交えた話し合いによって問題解決に向かうという方向性が見えてきている。
- 教職員の負担軽減に向けた取り組みが進んでおり、教職員がより子どもたちに集中できる環境作りが求められている。
- ほっとステーションについては、アンケート調査などを通じて、教職員や保護者からのフィードバックを収集し、効果検証をして今後の改善点やニーズ把握に努める必要があるという意見が出た。
- 教職員の仕事は教育指導要領に沿った授業が基本であり、それ以外はほっとステーションが引き受けるということを天理市が先行して実施していることを改めてみなぎ認識する必要があるという意見が出た。

### (3) 学校と地域のあり方について～みんなの学校プロジェクト～

- 「みんなの学校プロジェクト」を通じて、地域と連携し子どもたちを育てる仕組みを構築していくことが重要である。
- 学校三部制を推進し、地域の大人との信頼関係を築くことで安全性や地域の絆作りを目指す。
- 公民館活動と学校教育の連携強化により、地域活動を充実させるために意見収集や検討が行われるべきである。
- 地元大学との協力によって社会教育活動を活性化させ、学生や若者が地域貢献できる環境づくりが求められている。

#### (4) 社会教育委員会議のあり方について

- 重複した話題を効率的に議論することを目指すため、社会教育委員会議と公民館運営審議会との合同開催がまなび推進課より提案された。
- 合同開催については課題もあり、参加者からの意見を求めつつ進める必要がある。また、他地域での成功事例を参考にしながら、一部合同で行い、検討していくというのでよいのではないか。

## 4 その他

- 1月13日の二十歳の記念式は454名の参加者があり、高市早苗衆議院議員も来賓として出席され、15名の実行委員メンバーの協力のもと無事執り行うことができた。
- 2月15日に開催される天理市人権教育推進協議会の研究集会への参加者を募った。